

3 緒方盆地の屋根並み景観調査

①調査のねらい

「わたしたちの緒方町」(緒方町社会科副読本編集委員会 昭和 54 年)によれば、戦後まもない昭和 25～35 年ごろまで、緒方町の多くの住宅が木造で、屋根は、わらぶき、かやぶき、杉皮ぶきなどであった。昭和 30 年以前の過去の集落景観の写真と現在の集落景観を比較することで、現在の屋根並み景観に法則性があるのではないかとの仮説のもと、現地調査を行った。



写真 38 戦前の農家住宅 (出典:「わたしたちの緒方町」)



写真 39 農家住宅のプロトタイプ (後藤家住宅)
主屋は直屋 (すごや) で「オトシゴンヤ (落とし小屋)」が、並置屋根は、茅葺を寄棟瓦葺きに改修している。

②調査結果の概要

上自在、下自在、上年野、井上地域で、過去の写真と現在の写真を比較し、調査を行った概要は、下記のとおりである。

- ・現状も勾配屋根の木造住宅 (2 階建てが多い) が多い。
- ・茅葺屋根を改修した屋根は、寄棟 (又は入母屋) が多いのではないと思われる。
- ・逆に考えれば、現在、寄棟 (又は入母屋) の建物は、過去、茅葺屋根だった可能性がある。
- ・また、現在において寄棟 (又は入母屋) でない建物は、昭和 30 年以降に新築されたものが多いのではないと思われる。
- ・基本は平面の長手方向が井路と並行になっている。

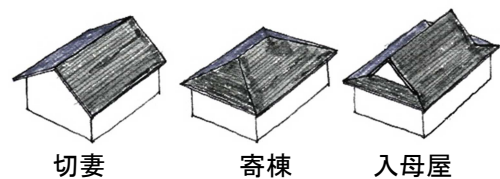


図 24 建物の型式

上自在地区

一体一で対応する建物として入楽寺を挙げることができる（矢印）。

昭和 30 年代の写真を見ると、茅葺屋根と瓦屋根が混在している。

昭和 30 年以前は、ほぼ茅葺屋根であったことから、昭和 30 年代において既に瓦屋根（寄棟）のものは茅葺屋根から改修済みのものではないか。

また、現在の写真を見ると、昭和 30 年代以降に新築された建物は切妻など寄棟以外の屋根形状が多いのではないか。

令和元年（2019 年）の写真



昭和 30 年（1955 年）代の写真



下自在地区

一体一で対応する建物として矢印で指した建物を挙げるができる。

写真の集落が、緒方小学校北側で緒方駅そばであるため、人口集積が進み、写真の手前方向に開発が進んだことが確認できる。

令和元年（2019）の写真



昭和30年（1955）の写真



上年野地区 長瀬橋付近

やや遠めから見ているため、一体一対応で、対応する建物を特定することはできない。
ただし、以下の傾向がある。

①建物の構造は木造のままである。②屋根は傾斜屋根である。

また、以下のことが推測できる。

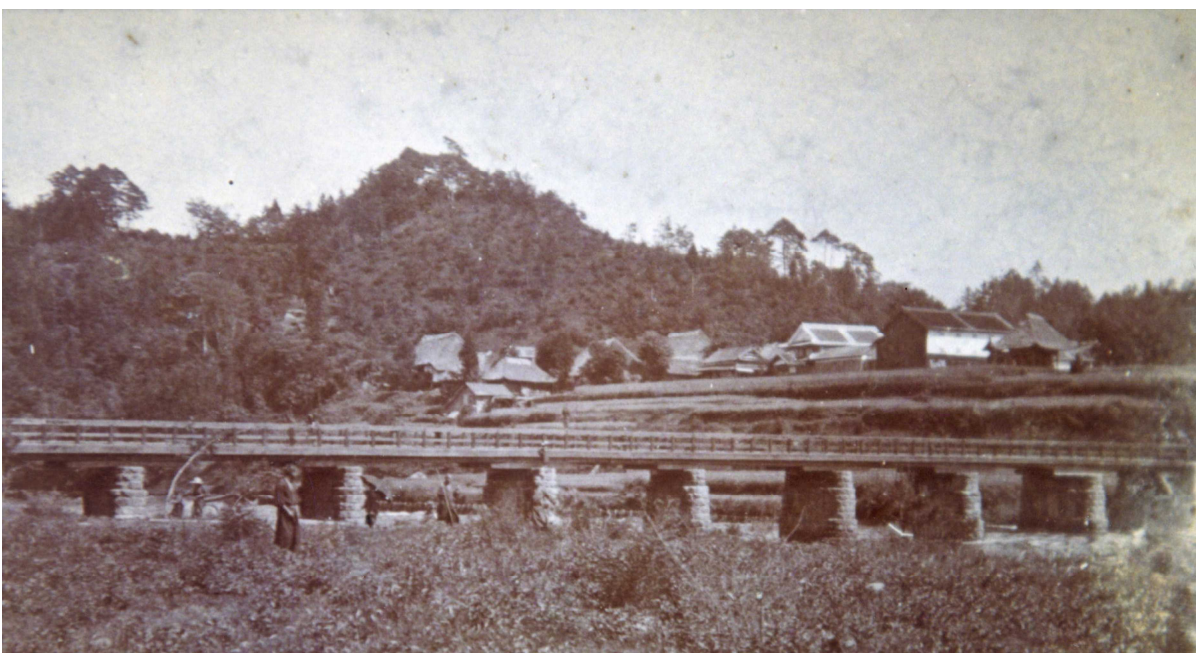
大正 11 年緒時点で茅葺屋根だった建物が、建替え又は屋根の葺き替えにより、瓦屋根となっている。昨年度調査において、緒方盆地の典型的な農家住宅として取り上げた後藤家住宅は茅葺を寄棟瓦葺きに改修していた。

なお、長瀬橋は、付け替えられており、2 時点で位置が異なる。

令和元年（2019）の写真



大正 11 年（1922）以前の写真



井上地区

やや遠めから見ているため、一体一対応で、対応する建物を特定することはできない。
ただし、以下の傾向がある。

- ①建物の構造は木造のままである。
- ②屋根は傾斜屋根である。
- ③手前から、水田、井路、集落、山との空間構造は変わらない。

令和元年（2019）の写真



昭和18年（1943）の写真



4 緒方盆地の建物調査

緒方盆地の建物に関わる現地調査及び文献調査（古地図や古い写真での検索を想定）、並びに地元住民等へヒアリング調査等を行い、重要文化的景観の建物に関わる構成要素を抽出した。

これらのうち所有者同意を得られたものについては、建物の配置及び建築時期を特定するための建物内部調査を行った。

①建物名称：吉良酒造 酒蔵

調査期日：平成 30 年 7 月 25 日、8 月 9 日

所在地：緒方町下自在

営業内容：酒造業は、明治 4 年の創業で、清酒「丹誠」などを製造。

建築時期：およそ 100 年経過と推定（聞き取り；大工棟梁工藤桂馬の最初の仕事）

敷地内の建物：①酒蔵（上蔵、中蔵、仕込み室、酒母室、麴室）、②倉庫、③店舗、

工作物：煙突

（1）建物の概要

イ)上蔵:木造 2 階建て 切妻造り瓦葺き 土蔵造り、基礎は石場立て

主屋：1F：酒造場、梁行 約 11.7m（柱間 2 間）、桁行 15.6m（柱間 4 間）、柱 300 角、
250 角

2F：倉庫、柱間は 1F に同じ 柱 170～180 角

小屋：和小屋で、（陸梁+束）型式と（登り梁）型式を、1 本置きに架けている。

外周の桁行の柱は、16 間で、柱間寸法は、約 980 mm

下屋：主屋の南側に約 4.5m 幅の作業スペースに下屋が架けられている

杜氏室：主屋の西側下屋部分は、杜氏室で、便所、宿泊室があるが現在は使用されていない。

ロ)中蔵:木造 2 階建て 瓦葺き 土蔵造り

上蔵に接続して建築されている。建物の軸は、敷地に沿わせる理由か、上蔵とは偏芯し、「く」の字状になっている。建築時期は、ほぼ同時代と考えられる。

主屋：1F：酒造場、梁行 約 7.7m（柱間 2 間）、桁行 15.8m（柱間 3 間）、柱 200 角

2F：倉庫、柱間は梁行（柱間 2 間 一部 3 間）、桁行（柱間 4 間） 柱 150 角

下屋：南側に、桁全長に幅 4.3m で設けられている

小屋：上蔵と同様の形式。

上記の上蔵、中蔵は、最も古い時期の建築で、ほぼ同時期と推定される。柱、壁の多くの箇所が、コンクリートブロック壁に改修されている。これらに接続して仕込み室、酒母室、麴室があり、一体の建築物になっている。緒方盆地に数件の酒造業が存在した当時の酒蔵の原型を伝える建物と推定される。

ただし、劣化対応と補強のために、建築時のものから、躯体の多くの箇所がコンクリートブロック造に改修されている。

(2) 調査票

建造形式 (現状)	(旧状)
■棟 平入・妻入 直・鍵・T・	/ 平入・妻入 直・鍵・T・
■屋根 入・切・寄・方 鉄・棧・本・草	/ 入・切・寄・方 鉄・棧・本・草
■階数 平屋・中二・本二	/ 平屋・中二・本二
■軒裏 2F 露・塗込 上塗 1F: 露・塗込	/ 露・塗込
■外壁 1 2F 真・大 (荒・漆喰・モ・板) + 鉄	/ 真・大 (荒・漆喰・モ・板) + 鉄
■側壁 1・2F 真・大 (海鼠・モ・縦板・簷板)	/ 真・大 (海鼠・モ・縦板・簷板)
■腰壁 1F 真・大 (荒・漆喰・モ・板) + 鉄	/ 真・大 (荒・漆喰・モ・板) + 鉄
■柱間 1F 蔀+大戸・ガ戸 出・平格子 戸袋	/ 蔀+大戸・ガ戸 出・平格子 戸袋
■柱間 2F 鉄+シ・板+ガ 格子 戸袋	/ 鉄+シ・板+ガ 格子 戸袋
■二階窓 水切庇・繰型・手摺	/ 水切庇・繰型・手摺
■小屋組 又・垂・和 (束・梁) 登	/ 又・垂・和 (束・梁) ・登
■基礎 玉石・割石・切石・コ布礎 土台	/ 玉石・割石・切石・コ布礎 土台

1Fのみトタンで被覆改修

●寸法・柱幅:ミセ【 1F 300 2F200 面内: 】

■太柱幅【面内 :場所 】 ●柱間:2間【 場所: 】

■上蔵 【 1F(階高 3470) 2F(梁下までの高さ2230)】

■指物断面【 ・ 】 ■床梁断面【H180~270程度】・根太断面【 H70程度 ・ 】

■長押断面【 ・ 】 ●床の間奥行【 】 ● 【 】

●材種【ミセ柱(堅木?) ガシキ柱() 大黒柱 () 差物() 梁 (松)】

材料は、製材品の角物以外に、屈曲の大きな梁、太鼓落しの垂木、面が落ちた柱材を使用
質実な建物



写真番号 001 撮影日 20180725 外観(西面)

部位内容 煙突の赤煉瓦と漆喰の白壁が印象的な立面



写真番号 004 撮影日 20180809 外観(北面)

部位内容 旧日向街道に面する店舗の正面
道の対面側に上水路が流れる



写真番号 002 撮影日 20180725 外観(南面)

部位内容 田越しに見る立面
1Fの壁部分は、白いタンで覆っている



写真番号 005 撮影日 20180809 上蔵2F

部位内容 正面の柱・壁は、鉄筋コンクリート(RC)とコンクリートブ
ロック(CB)造に改修されている。



写真番号 003 撮影日 20180725 外観(南西面)

部位内容 もっとも古い2棟の酒造蔵の周囲に、別棟や下屋など増
築が多い



写真番号 006 撮影日 20180809 上蔵2F

部位内容 物置として使用。壁は、土蔵造り
屋根の野地板は、屋根改修の際に、取り換えている

									
写真番号	007	撮影日	20180725		写真番号	010	撮影日	20180809	
部位内容	酒造タンクが並ぶ。正面の柱・壁は、RC及びCB造に改修されている				部位内容	酒造タンクが並ぶ。右手の柱・壁は、RC及びCB造に改修されている			
									
写真番号	008	撮影日	20180809		写真番号	011	撮影日	20180725	
部位内容	梁は、松材を使用。曲がりの多い材を使っている。				部位内容	右側が2階建ての中蔵。増築された下屋と推定。正面と右手の柱・壁は、RC及びCB造に改修されている			
									
写真番号	009	撮影日	20180809		写真番号	012	撮影日	20180725	
部位内容	壁は、土蔵造り。塗り土の剥落、小舞の欠損など劣化が著しい。屋根は、上蔵と同時期に改修している。				部位内容	2棟の蔵の周囲には、CB造の増築部分が多い			

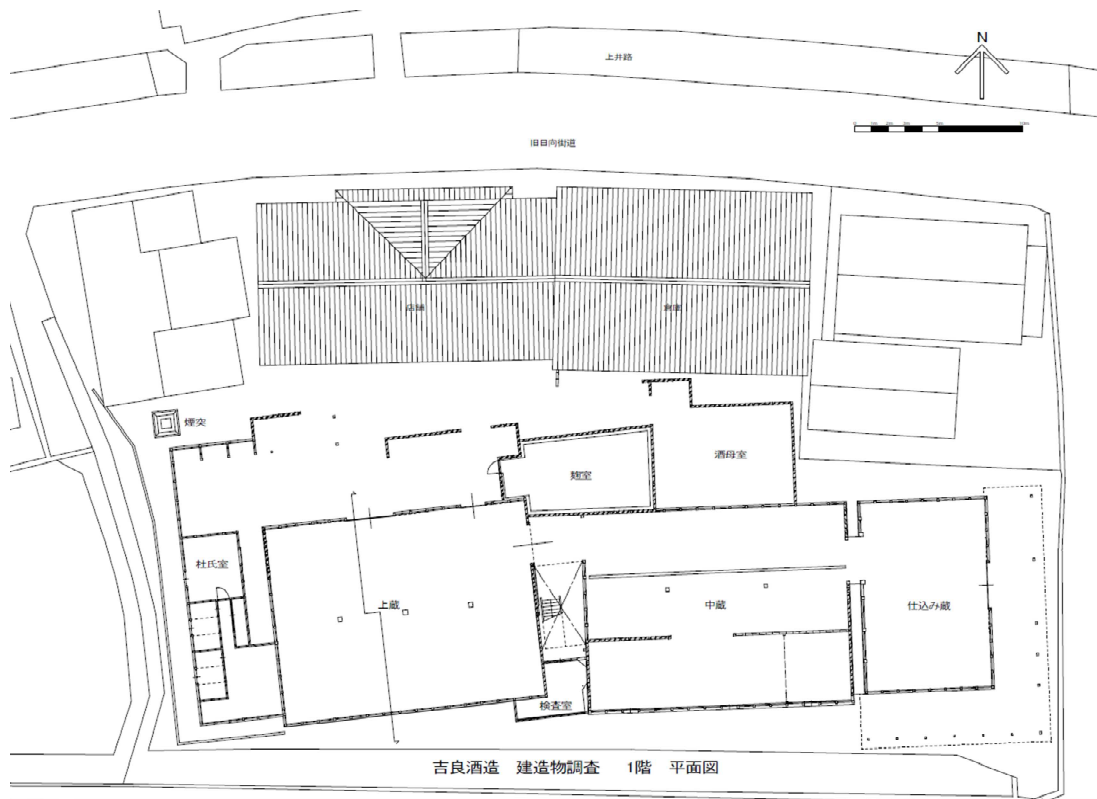


図 25 吉良酒造 1階平面図

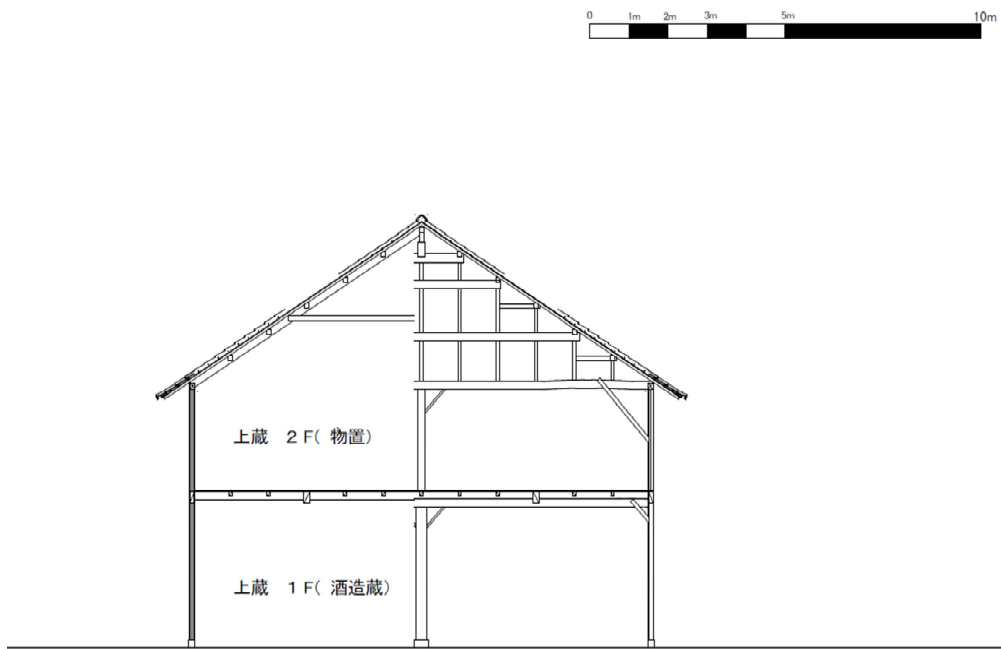


図 26 吉良酒造 断面図

②建物名称：三代邸

調査期日：平成 30 年 10 月 25 日

所在地：緒方町下自在

建築時期：およそ 100 年以上経過と推定（聞き取り：祖父が建築）

1985 年の大分合同新聞の紹介記事では、「80 数年たつ」としている。

敷地内の建物：①主屋、②離れ（かつては畜舎・農業用倉庫で、地階はこの地で「オトシゴンヤ（落とし小屋）」と呼ぶ堆肥舎）（W2F、一部 BF）③蔵（W2F）、④離れと蔵との間の車庫（S1F）

（1）建物の概要

上井路に面し約 40m の長さに築かれた高さ 2m ほどの石積みの擁壁と、およそ 1.5m 幅の水路に架けた石造の水路橋が印象的な農家住宅。かつては周辺の宅地と同様に水路に近い地盤高であったが、現在の建物への建替えにあたって建物背面の北側の崖（溶結凝灰岩）を削り石垣を積み地盤を嵩上げしたとのこと。農家の時代（現在の当主は、元教師）に建築した農家住宅であるが、武家住宅のように式台付きの玄関を有し、扇垂木とするなど、高水準の仕様の住宅。また、敷地内の建物は、近年に増築された「離れと蔵との間の車庫」を除き、主屋と同時期または、それ以前と推定される。

（2）配置

敷地西側に主屋を置き、東側に旧畜舎・農業用倉庫と蔵を置く。主屋への経路は、昔は、水路橋を渡り西向きに水路と並行な斜路を設け式台付き玄関に至っていた。座敷前の庭は漆喰塗りの土塀によりアプローチ部分と区画している。

イ) 建物の概要

主屋：居宅 木造 1 階建て 寄棟造り瓦葺き 土塗り壁漆喰塗り

1F：座敷、玄関広間、居間、台所・食事室、土間、和室 3 室、便所、浴室、倉庫（約 195 m²）

2F：未調査（約 100 m²）

ロ) 主屋の外回りの特徴

- a) 式台付き玄関の寄棟屋根の軒及び主屋の隅角部の 2F の軒は扇垂木とし、1F は和垂木とする手の込んだ構成である。
- b) 土間の前面の軒は、せがい軒型式で、出は約 2m と長く、この地で「壁なし」と呼ぶ農家住宅の特徴を備えている。
- c) 式台付き玄関と土間西側の和室の外部建具は、障子と雨戸のみで、サッシに改修されず、建築当時のままと推定される。

（3）主屋の内装の特徴

- イ) 座敷 主屋と南西部に位置し、外部に廊下が周る。柱寸法 140 角、柱間は 1.85m の 8 畳で、北側に、書院付き本勝手の框床を配する。床の右手は仏間とする。砂壁で、竿縁天井。西の隣室との小壁は、透かし彫り欄間とし、襖で仕切る。それ以外の区画は、障子とする。

座敷をはじめ主な部屋の柱、長押、鴨居などは、黒く塗られている。後に塗装をしていると思われるが、そもそもは黒漆塗の可能性もある。土間の舞良戸は、主人によれば、漆塗りであるとのこと。また、棧部分の手の込んだ細工などから高級な仕様であることが推測される。

ロ) 廊下 主屋の南西の廊下は、天井を貼り、竿縁を2本対にしている。北側の天井はなく、垂木、野地板はあらわしである。

ハ) 土間、居間、土間西の部屋は、大引天井としている。台所・食事室の小屋梁は、あらわしとなっているが、その後の改修によると思われる。



緒方町上自在の三代家富さん(五六)の家は八十数年たつという式台のあるケヤキの大黒柱、昔のままの土間が風情を醸し出します。油ぞうきんで磨いた戸には家紋が入っている。家の前の緒方井路にかかると、家とおなじく、幅は広いが、石垣もすばらしい。ブロックになっている部分は折をみて、復元する予定という。

写真・青木茂之
文・平野統之

昭和六〇年一〇月一六日
大分合同新聞

写真 42 三代家建物を紹介する大分合同新聞

									
写真番号	001	撮影日	20181003		写真番号	004	撮影日	20181003	
部位内容	(外観)隣接建物より石積み擁壁により地盤を高くしている				部位内容	進入路の石造の水路橋			
									
写真番号	002	撮影日	20181003		写真番号	005	撮影日	20181003	
部位内容	およそ2mの間知石積み擁壁の上に、しっくい塗りの土塀を設けている				部位内容	蔵			
									
写真番号	003	撮影日	20181003		写真番号	006	撮影日	20181003	
部位内容	敷地の水路沿いの高くて長い石積み擁壁は、旧日向街道沿いの印象的な点景になっている				部位内容	右側の石積みが、「落としごんや」と呼ぶ牛馬の糞を堆肥とする畜舎の下階に降る斜路の起点			

			
写真番号	007	撮影日	20181003
部位内容	主屋の東側の妻面		
			
写真番号	008	撮影日	20181003
部位内容	主屋の土間の入り口、式台付き玄関。その向こうに土塀。		
写真番号	010	撮影日	20181003
部位内容	主屋2階の軒の扇垂木での見上げ		
			
写真番号	009	撮影日	20180809
部位内容	土間前のせがいで軒型式の見上げ。約2mの出寸法		
写真番号	011	撮影日	20181003
部位内容	左が式台付き玄関。右が土間。		
写真番号	012	撮影日	20181003
部位内容	式台付き玄関を上がった「広間」から玄関の見返し。建具は、障子。外部建具は、雨戸のみ。		

写真 44 三代家建物 調査写真 2

							
写真番号	013	撮影日	20180809	写真番号	016	撮影日	20181003
部位内容	座敷の付け書院付きの樞床と仏壇。			部位内容	土間の舞良戸。主人によれば漆塗り。取手の細工も細か		
							
写真番号	014	撮影日	20180809	写真番号	017	撮影日	20181003
部位内容	式台付きの玄関から上がった広間から座敷を見る。透かし彫りの欄間としている。			部位内容	大引き天井の見上げ。		
							
写真番号	015	撮影日	20180809	写真番号	018	撮影日	20181003
部位内容	前記の透かし彫りの欄間			部位内容	大引き天井の見上げ。		

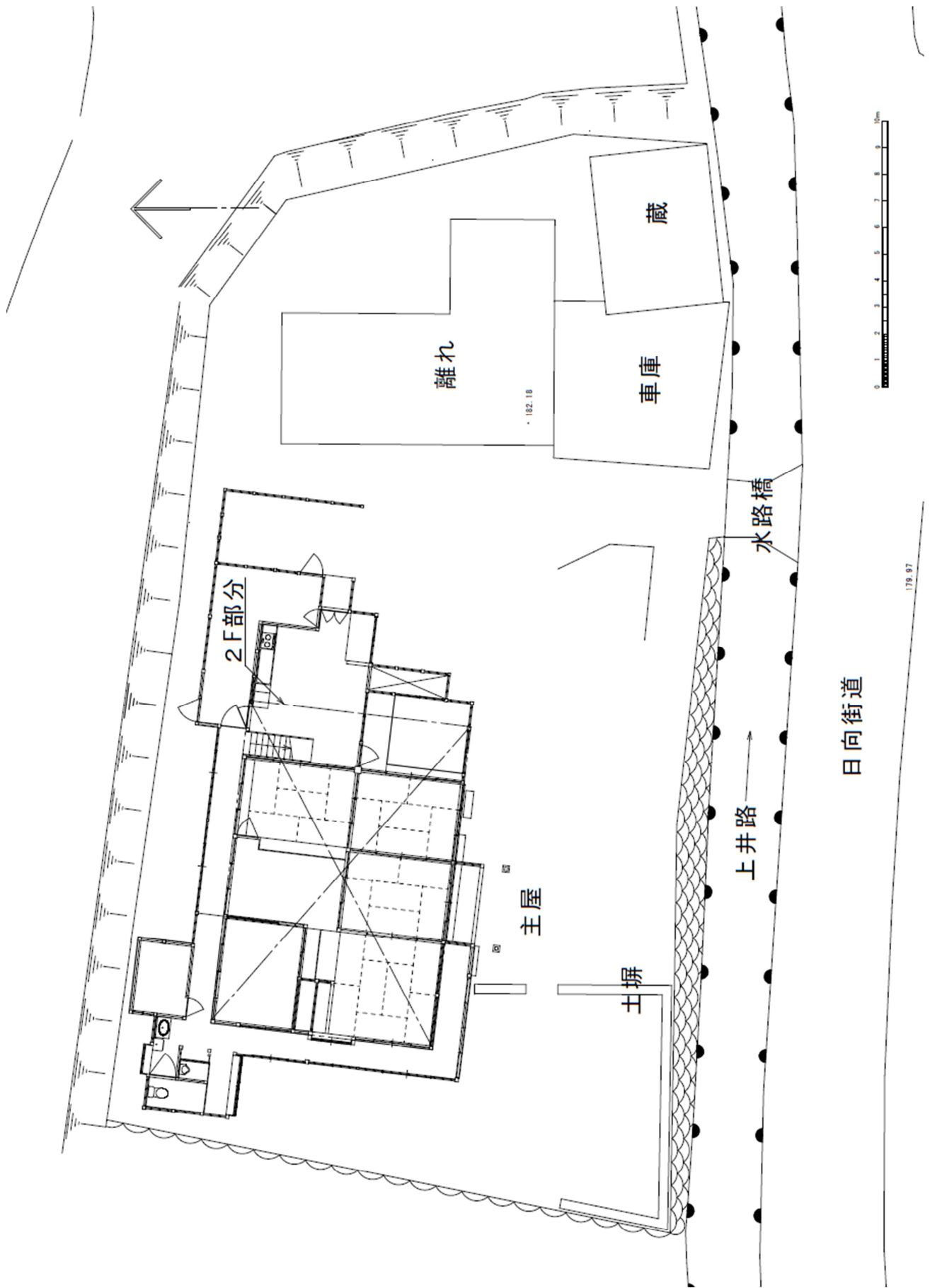


図 27 三代家建物 配置図

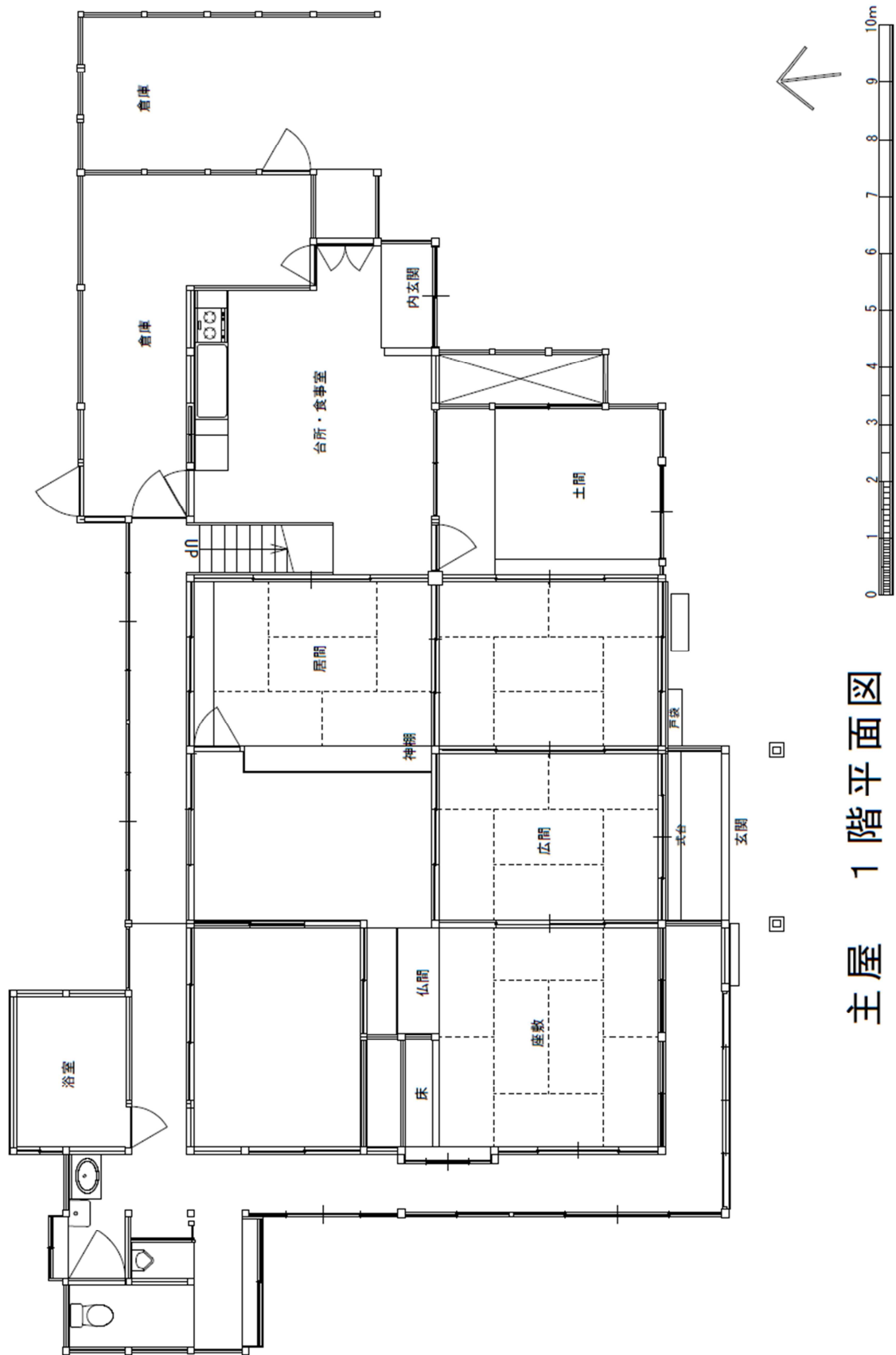


図 28 三代家建物 1階平面図

③緒方盆地の農家住宅の特徴

(1)「オトシゴンヤ（落とし小屋）」

緒方盆地の基本的な土地利用は、盆地中央に緒方川が東に流れ、川の左右の河岸段丘の段丘面に水田があり、段丘崖の傾斜地に集落が立地している。上井路開発では、段丘崖の裾に新たに水路を通し、新設水路より標高の低い土地にあった畑地と集落を段丘崖に移転している。そのため、農家住宅の多くは、水路より標高が高い斜面地に建っている。

この敷地条件を活かし、農耕に必要な牛馬の飼育とその糞を堆肥に利用するための建物が、「オトシゴンヤ（落とし小屋）」と呼ぶ2層形式の「畜舎・堆肥舎」である。

上層は、主屋と同じ地盤の高さで、木造の牛馬舎とし、下層は、切り石積みの壁または擁壁で囲み、室の壁の上部を30cm角程度の開口とし、上層から牛馬の糞を落下させる。

糞は、もみ殻、藁と混ぜて、堆肥とする。下層は、堆肥の搬出のために、道に面する側には壁を設けない。立地条件に応じて、2面以上を開ける例も多い。

現在は、牛馬は耕運機に代わり飼育されていないため、畜舎は、倉庫は居室に代わり、堆肥舎も倉庫や車庫に代わっている。

悉皆調査は行っていないが、この建築形式は、緒方盆地全体では、100を下らない数が存在していると思われる。

イ)「壁なし」

雨天時等の農作業の空間として、軒の出を深くする型式が一般的に見られる。いわゆる「せがい軒」型式の軒である。主屋のほか、倉庫も同型式としたものがあり、軒下は、薪、農具置きに使われる。

ロ)「農家住宅のプロトタイプ」

原尻集落には、昭和初期頃までの緒方盆地の農家住宅の「祖型」の一つと想定される住宅が現存している。主屋は直屋（すごや）で、「落とし小屋」が必ず並置される。

後藤家住宅は、その典型で、主屋の内部空間は、大きく改修されることなく、土間の台所にかまどが現存している。屋根は、茅葺を寄棟瓦葺きに改修している。

ハ) 文献による農家住宅の特徴について

「緒方町の民俗」（昭和53年 北九州大学民俗研究会 / 編）がまとめられている。前項までの記載の理解を深めるために、関連する主な事項を転載する。

1. 建物・屋根

① 建物配置

屋敷内には、母屋、ウマヤ(厩)、蔵、カワヤ(便所)などを配置する。母屋はほとんどが南向きに建てられている。ウマヤは座敷の反対側で、勝手口から便利の良い所に建てられた。母屋の前の庭をツボとよび、もみ干しをはじめ穀物の調整などをおこなった。

② 家のつくり

母屋のつくりは、棟がまっすぐの直屋がほとんどで平屋である。

大きさはまちまちであるが、上畑では奥行きが四間(約七、二メートル)で間口が六間の四六の家が多かったという。

写真

オトシゴンヤ(落とし小屋)

(1 / 2)







	
<p>写真番号 001 撮影日 昭和28年頃</p>	<p>写真番号 004 撮影日 20180501 原尻</p>
<p>内容 「田おこし」の「こがら」を引く光景 豊後大野市歴史民俗資料館所蔵</p>	<p>内容 建物の地階が堆肥舎</p>
	
<p>写真番号 002 撮影日 20180501 原尻</p>	<p>写真番号 005 撮影日 20180501 原尻</p>
<p>内容 堆肥舎の上に2階建ての木造住宅</p>	<p>内容 004の建物の地階側</p>
	
<p>写真番号 003 撮影日 20180501 原尻</p>	<p>写真番号 006 撮影日 20180501 原尻</p>
<p>内容 堆肥舎の内部 現在は物入れに使われている</p>	<p>内容 003の「落とし口」</p>

写真 46 原尻の農家建物 調査写真 1



写真番号 007 撮影日 20180501

写真番号 010 撮影日 20180501

内容 主屋と前面道路の地盤の高低差を畜舎の階高としている

内容 道路側にCB造で増築し、シャッターを設けた例
構造型式はそのままに、多様に改修されている

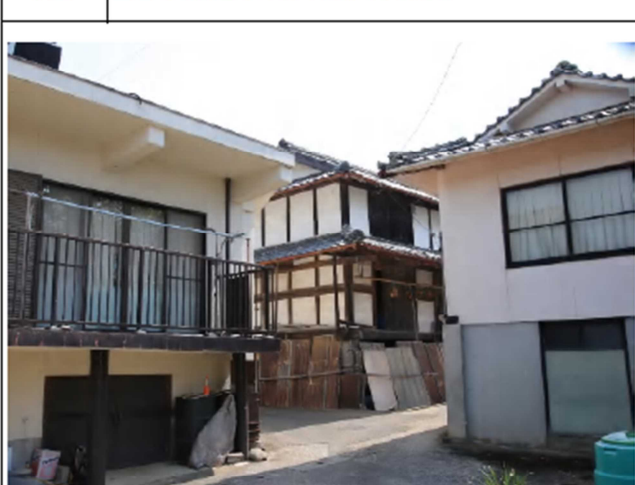


写真番号 008 撮影日 20180629

写真番号 011 撮影日

内容 正面の3階建ての最下階が元堆肥舎

内容 鉄筋コンクリートで造られた例



写真番号 009 撮影日 20180501 原尻

写真番号 012 撮影日 20180618 井上

内容 集落内の道路に面して3軒の「落としごんや」がある

内容 現在も建築の型式は踏襲されている



写真番号	001	撮影日	20180501	原尻
------	-----	-----	----------	----

内容	一般的な軒下の空間より半間(1m弱)広がっている
----	--------------------------

写真番号	004	撮影日	20180501	
------	-----	-----	----------	--

内容	玄関以外の主屋の桁行を「壁なし」としたもの
----	-----------------------



写真番号	002	撮影日	20180501	原尻
------	-----	-----	----------	----

内容	001の軒先の見上げ いわゆるせがい軒型式
----	-----------------------

写真番号	005	撮影日	20180501	
------	-----	-----	----------	--

内容	倉庫の軒下空間を広くする例もある 薪、農具の収納に使用する
----	----------------------------------



写真番号	003	撮影日	20180501	原尻
------	-----	-----	----------	----

内容	奥の主屋と手前の倉庫を「壁無し」としている
----	-----------------------

写真番号	006	撮影日	20180501	原尻
------	-----	-----	----------	----

内容	柱を設け「出し桁」を受けるものもある
----	--------------------



写真番号	001	撮影日	20180501		
内容	所在地の航空写真 (google map)				

写真番号	004	撮影日	20180501		
内容	2層の「落としごんや」の上階に居室を設けている 地下1階、地上2階建て				



写真番号	002	撮影日	20180501		
内容	手前が「落としごんや」 奥が主屋 瓦屋根は茅葺き替えしたもの				

写真番号	005	撮影日	20180501		
内容	主屋と「おとしごんや」は、下屋で接続している				



写真番号	003	撮影日	20180501		
内容	台所 土間とかまどが現存している				

写真番号	006	撮影日	20180501		
内容	昔の家畜室				

写真 49 原尻の農家建物 住宅のプロトタイプ写真

5 文化財及び文献等に掲載されている建築物

①国登録有形文化財

建物名称：旧緒方村役場庁舎

所在地：緒方町馬場 574

登録年月日：平成 9 年 5 月 7 日

『昭和 7(1932)年 4 月 1 日に緒方村と南緒方村が合併し、その記念として緒方村役場庁舎が新築された。昭和 33(1958)年からは緒方町公民館として使用、昭和 40(1965)年から平成 4(1992)年までは、竹田直入医師会立豊西准看護学院として使用された。旧庁舎は、正面八間、側面六間半の木造二階建・半切妻屋根・洋風瓦葺。玄関天井と二階議場天井部分には菊花型の石膏レリーフがあしらわれ、西洋風の雰囲気を醸しだしている。』（豊後大野市 HP より）

②調査文献掲載建物

建物名称：三宮八幡社

所在地：緒方町大字上自在 414（字恵良）

文献：大分県の近世社寺建築緊急調査報告書 / 大分県教育庁管理部化課編集

拝殿 桁行三間 梁行二間 入り母屋造 千鳥破風付き、向拝一間、軒唐破風付 棧瓦葺

文化 12 建立 明治 43 修理（棟札）

本殿 三間社流造 銅板葺

文化 12 建立 明治 43 修理（棟札）

※一宮八幡社、二宮八幡社、三宮八幡社については、別に詳細調査を実施した。「第 4 節 2 緒方盆地の主要な神社」を参照。

									
写真番号	001	撮影日	20180427	旧緒方村役場	写真番号	004	撮影日	20180427	三宮社
内容	外壁の一部が欠損している				内容	拝殿 本殿			
									
写真番号	002	撮影日	20180427	旧緒方村役場	写真番号	005	撮影日	20180427	三宮社
内容	玄関ポーチ スクラッチタイル、洗い出し仕上げ				内容	拝殿			
									
写真番号	003	撮影日	20180427	旧緒方村役場	写真番号	006	撮影日	20180427	三宮社
内容	玄関ポーチの天井 しっくいのリリーフ				内容	本殿			